



芹沢銈介 (1895-1984)

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 1. 布文部屋着 芭蕉、型染 1959年 丈143.0cm |
| 2 | 2. 文字入四季文屏風(部分) 麻、型染 1954年 |
| 3 | 3. 赤絵柳文皿(絵付) 1941年 径19.0cm |
| 4 | 4. 伊曾保物語屏風(部分) 絹、型染 1932年 |
| 5 | 5. 沖縄風物 紙、型染 1948年 縦26.9cm |

柳悦孝 (1911-2003)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 1. 名古屋帯(部分) 絹、浮織 1970年 幅35.5cm 当館蔵 |
| 2 | 2. 溶け糸ショールとマフラー3種 毛 |
| 3 | 3. 三色重染市松名古屋帯(部分) 絹、吉野織 1967年 |
| 4 | 4. ショール(部分) 絹、浮織 当館蔵 |

特別展 芹沢銈介と柳悦孝

— 染と織のしごと —

2011年 7月5日(火) — 9月4日(日)

Keisuke Serizawa and Yoshitaka Yanagi —Dyed and Woven Works—

[写真左上より] 山に草花文小襖(部分) 1935年/蔬果文屏風(部分) 1930年/装丁 式場隆三郎著『ファン・ホッホの生涯と精神病』 1932年 3点とも芹沢銈介作品
[写真右上より] 藍地椿文様絵紺飾布(部分) 1970年/白地赤黄文様紺名古屋帯(部分) 1973年/溶け糸マフラー(部分) 1980年頃 3点とも柳悦孝作品

月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館) / 10:00-17:00 / 一般1,000円 大高生500円 中小生200円 / 東京都目黒区駒場4-3-33 / TEL 03-3467-4527 / 京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分 / 西館公開日(旧柳宗悦邸): 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜日 / <http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

染色作家・芹沢銈介(1895-1984)と染織作家・柳悦孝(1911-2003)は、染と織において民藝運動を代表する存在であり、二人は仕事を越えて親しく交流し、かつ互いを敬う間柄でした。この度、設立75周年に因み二人展を開催します。

日本民藝館創設者・柳宗悦の『工藝の道』に導かれ、宗悦を生涯の師と仰いだ芹沢は、静岡市の裕福な商家に生まれ、東京高等工業学校(現東京工業大学)図案科を卒業しました。芹沢と宗悦との出会いは、芹沢の絵馬の蒐集を見に、昭和2(1927)年に宗悦が訪ねたことから始まります。

昭和3年、初めて沖縄の紅形の風呂敷に出会った芹沢は、その模様や色や材料に強く惹かれ、昭和14(1939)年には柳宗悦らと沖縄に渡り、紅型を学び、その技を習得します。紅型は芹沢の生涯に亘る型染の仕事に決定的な影響を及ぼします。型紙を使って糊で防染し、色差しをして染める型染は本来分業の仕事でしたが、芹沢は型彫から染まで全て一人で行いました。その優れた意匠力に富んだ色彩豊かな仕事が認められ、昭和31(1956)年に「型絵染」で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。その作品は着物や帯、暖簾、間仕切り、軸、屏風などの他、昭和6(1931)年創刊の民藝運動の機関誌である『工藝』表紙をはじめとする本の装丁や、『益子日帰り』『和そめ絵語り』等の絵本やカレンダー等多岐にわたります。染められた模様は花や鳥、風景、文字、身の品々など実に豊かな広がりを持っています。

一方、今年生誕100年を迎える柳悦孝は、柳宗悦の甥として千葉県に生まれ、叔父宗悦の勧めで織物



芹沢銈介 1970年 藤本巧撮影



柳悦孝 1977年 藤本巧撮影

の道に進みました。決してまねをしない創意工夫にたけた人であり、「仕事」という言葉を好みました。

沖縄の織物に魅せられ、昭和14年、芹沢と同じ時期に沖縄に渡って織物技法を学び、模様を自由に展開できる「手結」とよばれる緋技法を用いて、着尺や帯を織りました。また地元の豊富な植物染料をふんだんに使って何十回と染めて織る絹織物・黄八丈や、木綿を植物染料で染める唐棧織など、優れた職人から伝統の技を謙虚に学びながら、さらに模様や色彩における持ち前の秀でた感覚を生かし、堅牢で実用性に富んだ手織物を織りました。絹織物には天然染料を用いましたが、毛や木綿の織物には化学染料も多用しています。何色もの彩度の高い羊毛をカードにかけて混色し、煮ると水に溶けるビニロン糸を使った撚りの無い服地やマフラーなど、独創的な仕事もあります。溶け糸を使った仕事は戦後、倉敷レイヨン社長の大原総一郎とともに行った、日本独自の合成繊維であるビニロンを展開したものです。悦孝はまた、

地方の工人を指導して、手ごろな価格の着尺や、風呂敷などを量産し、世に広めもしました。

二人は日本民藝館の同人として民藝館の展示にも携わり、公募展「日本民藝館展」の審査などを通して、後進の指導にもあたりました。今も民藝館門柱に掛る芹沢の字による看板と、柳の織った玄関のビニロンのカーテンは、民藝館との強い絆を象徴しています。

本展では日本民藝館所蔵の芹沢作品と、日本民藝館と柳家所蔵の柳悦孝作品から、約100点を選んで展示します。

展示室 1 階

〔玄関〕河井寛次郎と濱田庄司作品

陶芸家の河井寛次郎(1890-1966)と濱田庄司(1894-1978)の作品を紹介します。二人は当館の設立者・柳宗悦とともに民衆の日常品の中に至上の美を見出し、「民藝」という新しい美の概念を世に提示し、河井は色の名手として、また濱田は形の名手として、近代陶芸界に独自の作風を確立していきました。

〔第1室〕東北地方の工芸 I ―暮しと祈り―

柳宗悦は、東北地方を「民藝の宝庫」と評し、多くの工芸品を蒐集しました。本展示では、陶器・薬工・樺工・金工など「暮らし」の中の造形と、縄文土偶や小絵馬など、信仰に関わる「祈り」の造形を展示します。東北で育まれた力強く逞しい造形をご覧ください。

〔第2室〕東北地方の工芸 II ―秀衡椀と南部椀・被衣―

朱漆と金箔による装飾が特徴の秀衡椀と南部椀。冠婚葬祭で用いられた庄内地方の被衣。東北の工芸の中でも、とりわけ格調高い絵文様が施された工芸品を、特集展示します。また、自由奔放な絵付で名高い浄法寺塗と、こぎんや刺子などの染織を併設します。

〔第3室〕沖縄の紅型と織物

芹沢銈介と柳悦孝がその美しさに感動し、二人の仕事の礎ともなった沖縄の染と織。型染による華やかな紅型と、絹・芭蕉・苧麻・木綿で織られた縞や緋や花織などの衣裳や、ティシャージを展示します。多くが19世紀に作られたもので、素材も色も技法も実に豊かです。

展示室 2 階

〔大展示室・本館及び新館回廊・第3室〕

特別展 芹沢銈介と柳悦孝 ―染と織のしごと―

型染による屏風・軸・着物や装丁本など芹沢銈介の幅広い染の仕事と、絹・木綿・毛などの素材を生かした、着物・帯・服地・マフラーなど柳悦孝の織りの仕事をご紹介します。民藝運動に深く関わった二人の仕事の中には、柳の織った布に芹沢が染めた雑誌『工藝』の表紙もあります。豊穡な色と模様の世界をご堪能ください。

〔第1室〕朝鮮時代の磁器 ―白磁・染付・鉄絵・辰砂―

当館は国内屈指の朝鮮陶磁器の蒐集で知られておりますが、今回は朝鮮時代に作られた白磁の壺や祭器、そして染付(青花)・辰砂・鉄砂で絵付された壺・瓶・水滴などの優品の数々を紹介します。器物に宿る民族固有の美をご堪能下さい。

〔第2室〕日本の磁器

館蔵の日本の陶磁器は、民間の窯で作られたものが中心ですが、なかでも有田焼(伊万里)の染付磁器を数多く収蔵しています。柳宗悦は抽象的なそれら染付の模様純和風な美しさを見出し、広く紹介しました。今回はそれらのものとともに、色絵磁器の優品も合わせて紹介します。

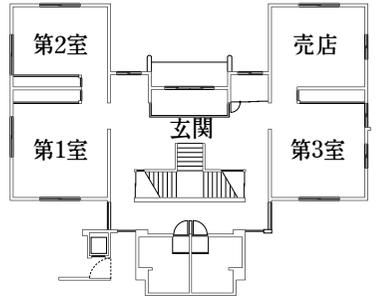
〔第4室〕日本の古人形

東日本大震災の影響により会期短縮となった「日本の古人形」を再構成して展示します。福島県の三春人形、宮城県の堤人形、山形県の相良人形など、江戸後期より人々の間で親しまれた東北の古人形を中心に、埼玉県の鴻巣人形も併せて紹介します。いきいきとした表情と美しい色彩が魅力の、民間の古人形の数々をご覧ください。

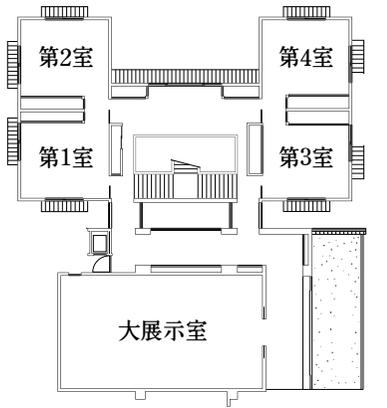
併設展『日本の古人形』関連講演会 アニミズムと郷土人形

〔講師〕千葉惣次(芝原人形四代目) 日時 8月27日(土) 18:00-19:30

会場 日本民藝館大展示室 料金 300円(入館料別) 定員 100名(要予約)



〔第2室〕漆絵箔置柏文秀衡椀
桃山~江戸時代 17世紀 縦13.3cm



〔第4室〕三春人形 騎馬武者
江戸時代 19世紀前半 高31.2cm

記念講演会 父・悦孝を語る 〔講師〕柳元悦(造形作家) 7月30日(土) 18:00-19:30

会場・日本民藝館大展示室 料金・300円(入館料別) 定員・100名(要予約、TEL.03-3467-4527)

静岡市立芹沢銈介美術館 開館30周年記念展のご案内

記念展Ⅰ	巨匠・芹沢銈介	―作品でたどる88年の軌跡―	2011年6月4日(土)~8月28日(日)
記念展Ⅱ	あつめるよろこび	―芹沢銈介の収集の世界―	2011年9月17日(土)~12月4日(日)
記念展Ⅲ	暮らしにとけこむデザイン	―デザイナー・芹沢銈介の仕事―	2012年1月4日(水)~5月(会期末日未定)

〔お問合せ〕静岡市立芹沢銈介美術館 TEL.054-282-5522 <http://www.scribi.jp/>